

露天保育

大正十年十一月大阪市に於て、露天保育を開始されてから、此處に三年。今回其の貴き實際の結果を左の如く報告せられました。(記者)

露天保育の實際

1. — 集合、幼兒等は毎朝集會所に参ります。
2. — 朝會、大體全兒が出揃ひましたならば全會集を致しまして、其日の目的なり、偶發事項を話したり或は幼兒の要求を聞き入れたりなど致しまして躰に重きを置いて居ます。
3. — 出發準備。人員點呼、履物服裝並に携帶品の検査、整列整容、乳母車の用意(保育用具一切載積)水筒、救急案の用意。
4. — 出發(晴天の日)愛染堂境内。此處は全く人里遠く離れたやうな感じのする誠に閑靜な而も廣莊な地で大樹は所々に繁茂して、木々の芽ぐむ頃から、地は一面に緑と化して到る所に雜草が生ひ茂て氣持よく夏の日などは大樹の下で涼しく暮す事が出來ます。そして遊び場所も大變廣うございますから最も好都合でありまして幼兒等は春から夏、夏から秋にかけては専ら草摘みに没頭して居ます。そしてそれで飯事や花屋ごと等をして喜んで遊んで居ます。又冬になりますと此處で奴胤を上げたり追ひ羽根をついたりして盛に遊びます。

四天王寺境内。幸ひ四天王寺境内の一隅には、最も幼兒に適したる滑り臺やブランコ、圓木、砂遊び場等が設備されてゐる

ますから此處へ出かけて來ます時にはいつも、かうした運動具で遊びます。それから此處には鳩や龜が澤山飼はれてゐますから米や豆をやつたり麩を與へたりして遊びます。

天王寺公園。此處には動物園もあれば植物園もあり又は市民博物館等がありまして、幼兒の見聞界を廣める事が出來ます又時々市民博物館内で教育的活動寫眞を見せていただく事もあります。

5.——備考。其日の都合で全體が同一行動を取て遊戲具や其他必要な保育用具を一切乳母車に積んで出掛ける事もあります又組本位に別々な方面へ、それぞれ必要な玩具や用具を手に／＼持ちながら出かける事もあります。

そして時候のよい時には、時折其遊び場所でお辨當を食へさせる事もありますが、然しこれは訓育上大に考へなければならぬ點があると思ひますから、特別の時の他は大抵集會所に歸て食事を致す事にして居ます。

そして雨天の日や、酷暑、嚴寒の日等は集會所内で遊戲唱歌やお話をしたり、其他恩物や色々の玩具等で遊ばせてゐます。

露天保育上の所感（普通幼稚園と比較して）

長所1.——自然の恩恵に浴する事が深い。

日光浴や空氣浴を充分にする事が出來ます。

草花に親み胡蝶や蜻蛉を友として遊ぶ事が出來ます。

小石や砂で充分遊ぶ事が出來ます。

敬神感謝の念を養ふ事が出來ます。

2.——存分活動する事が出來る。

廣々した自由の天地で愉快に面白く楽しく充分活動する事が出来ます。

伸びくとした、しかも充實したる生活をなす事が出来ます、自然身體も丈夫になり殊に健脚になります。

3.——見聞を廣める機会が多い。

自然界や社會を充分觀察する事が出来ます。

そして現實に對する實觀的興味を養ふ事も出来ます。

4.——情意的訓練を主とする事が出来る。

遊びに必要な用具は幼児自らが運びます。

保育に必要な設備其他一切の準備は幼児と保婦とで致します。お掃除の如もき幼児と保婦とで致します。

自然協同の精神や相互觀念や自治的訓練を與ふる事が出来ます。のみならず幼児等は非常に忍耐し奮勵し努力して一生懸命に勞働を致します。

各兒の行動實行經驗活動によりまして美しい感情を養ふ事が出来ます。

其上經費が至極僅かで誠に經濟的であります。

短所1.——設備上から見て。

幼兒の遊び場所には必ず、用場と手洗ひ場と休憩所とがなければなりません、然しかうして日々方々へ遊びに出かけます時には、さうした設備を何處の場所にでも自由に得るといふ事は中々不可能な事です。故に此點に就まして保育者は一方ならぬ苦心と困離を感じてゐます。

2.——訓育上からみて。

戸外で食事をさせるといふ事は得て放逸に不作法になり易くあります、だから私方では特別の場合の外は、いつも集會

所へ歸てから致す事にしてゐます。

2. — 都市の上から見て。

毎日幼児を引率して交通頻繁なる市中を歩くと云ふ事は中々心配な事であります。

露天保育一覽

1. — 大正十年の夏鈴木視學が下寺町三丁目の八十軒長家を巡視されました時、大に此の地方に於ける教育の必要を感じられまして、こゝに露天保育を試みる事になつたのであります（大正十年十一月十五日）

2. — 市が特に露天保育を試みたる理由。

建物は無くとも教育は出来るといふ其試みて、否むしろ教育は自然に歸らなければならないといふ其の考で、人さへあれば教育は、どこでも出来るものといふ其理由で。

3. — 目的 — 自然を友とする事。

4. — 方針 — 健全なる心身の發育を計ること。情意的訓練をなす事。敬神感謝の念を養ふこと。

5. — 主義 — 生活尊重主義。

6. — 方法 — 晴天の日は戸外に出て親しく自然の恩恵に浴しながら自由に愉快に遊ぶこと。

雨天の時は便宜上集會所内で遊ぶこと。

7. — 用具 — 戸外用。乳母車、ゴザ、水筒、靴、綱、籐輪、豆蘘、フットボール、赤白旗、ラケット、毬褲、手綱、奴虱、紙風船、竹トンボ、ゴム毬、羽子板及はね、飛行機、繪本、飯事、道具、救急藥、糸針、小刀、鋏、草履、製作材料一切。

室内用。玩具、恩物。

8. — 時間。

自四月 自午前八時。自七月 午前八時。自十月 午前九時。
至六月 至午後二時。至九月 正午。至三月 午後二時。

9. — 組編制（八十名）

舊兒一ノ組年長二二名——宇野 益美

二ノ組年少二一名——今岡 千代

新兒三ノ組年長二〇名——藤岡 たみ

四ノ組年少一七名——松川 ヨネ

戸外へ幼兒を連れ出す事故一保母の擔任幼兒數は約二十名程と市の方が定められて居ます。

10. — 經費（市支出）年額約二百圓。

人夫賃約六〇圓（使丁がありませんから時々人夫木炭代約五〇圓を使ふことがあります）

消耗費約九〇圓。

保育料は徴收してゐません。

保母の俸給は市から支出されます。